

# 第 3 章

## 特別支援学校ボランティアスキルアップ研修事業

# 1 社会福祉協議会と連携した研修（所沢養護学校）

## 1 ボランティアスキルアップ研修について

### （1）はじめに

所沢養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員と社会福祉協議会職員による講義及び小中学部の授業での介助体験で構成されている。参加者は2名と少なかったが、募集については、市の広報や社会福祉協議会の機関誌へ掲載を依頼している。また、研修の修了にあたっては、『修了証書』を発行した。今回研修を受けられた2名の方については、修了後に『特別支援教育ボランティア』として登録していただいている。

### （2）研修日程

	期日	内容	内容の詳細	講師・担当者
1	10/29	講義 講義	『本校の教育活動とボランティアに期待するもの』 『ボランティア活動の在り方について』	学校職員 社協職員
2	10/30	体験	小学部、中学部での介助体験	小・中学部
3	10/31	体験 講義	小学部、中学部での介助体験 『特別支援教育の現状と課題』	小・中学部 教頭

### （3）研修参加者の感想

- ・ 支援籍学習という言葉を知った。ボランティアという形で勉強し、少しでもお手伝いできることがあればと思う。
- ・ 所沢養護学校の様子が分かり良かった。
- ・ できないこと、分からないことでもゆっくり進歩していることに、少しでも支援できればと思った。

### （4）研修の成果

- ・ 講義、体験ともに多様な内容を盛り込んだので、参加者の理解が深まった。
- ・ 募集段階から養成講座のねらいを明確にしたので、講座後の支援籍学習の後補充が円滑になった。
- ・ 社会福祉協議会との連携が深まった。

### （5）研修の課題

- ・ 講座参加者の募集の規模の拡大と工夫。
- ・ 養成講座の日程設定の困難。

社会福祉協議会職員による講義の様子

### 修了証書

〇〇 〇〇 様

あなたは、平成20年度所沢養護学校支援ボランティア養成講座を修了したことをここに証明します。

平成20年10月31日

埼玉県立所沢養護学校長 〇〇〇〇

### 修了証書の例



## 2 講義『ボランティア活動の基礎知識』（所沢市社会福祉協議会職員）

### （1）内容

ボランティア活動の基礎知識ということで、前半はボランティアについての概念など、後半は所沢市で実際に行われている様々なボランティア活動の紹介をした。

また、午後からは実際に小中学部のクラスに入って、児童生徒の支援体験をした。

### 本日のねらい

ボランティアの動向をしる  
日本の現状  
所沢の現状

そもそもボランティアって、言葉の意味  
活動の原則

具体的な活動をみてみよう  
様々なカタチ

ボランティアのこつ  
無理なく、楽しく  
継続性

### 今、ボランティア活動に参加している人はどれくらい？

所沢市社協で受け付けた  
ボランティア活動保険加入者数は、  
**4,246件** (平成19年度)

所沢市社協で発行しているぶろべらナビに掲載されているボランティア・市民活動団体は、  
**59件** (平成19年度)

所沢市に事務所がある特定非営利活動法人は、  
**43件**  
(平成19年12月末認証まで)

### 様々なカタチのボランティア

#### 障がいのある方とかかわる活動

- ★視覚障がい、肢体不自由のある方の外出を支援するボランティア
- ★聴覚障がいのある方とかかわる活動
- ★精神保健福祉にかかわるボランティア
- ★失語症の方を支えるボランティア
- ★まちのバリアフリーについて取り組む活動

### ボランティア活動の続け方（1）

- ①気負わず、無理せず、自然に楽しく活動しよう！
- ②家族や周囲の理解を得よう！
- ③相手の立場に立って活動しよう！
- ④活動先のプライバシーは他言しない！

講義資料より抜粋

### （2）参加者の様子

- ・講義を熱心に聞いていた。
- ・介助体験は最初戸惑いも感じられたが、教員を見本に積極的に子どもたちと関わろうとしていた。

### （3）参加者の感想

- ・バスの見送りを見て、職員の方々が大勢で送る様子に心を打たれた。
- ・クラスでは、手順や注意事項をご指導してくださり、とても心強く感じた。
- ・体育はローラースケートだったが、健常者でもバランスを取って走るのが難しいのに、障害の程度に応じて手製の器具等で工夫し、指導している様子がよく分かった。



講義修了後にクラスでの介助体験

## 2 卒業生の話（大学での情報保障）（大宮ろう学校）

### 1 ボランティアスキルアップ研修について

#### （1）はじめに

大宮ろう学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員と外部講師による講義とノートテイクの実技講習で構成されている。ノートテイクについては、実際の通常学級支援籍でのボランティアも実施している。また卒業生や聴覚障害者による講義は、大変参考になる企画である。募集は社会福祉協議会と連携してチラシを配布している。参加者は42名である。

#### （2）研修日程

	期日	内 容	内 容 の 詳 細	講師・担当者
1	10/9	講義・実技	『特別支援教育について』 『子どもに対するノートテイクの実際』	校長・聴覚障害者情報センター職員
2	10/30	講義・実技	『聴覚障害とことば』・ノートテイク	通級指導教室保護者
3	11/7	講義・実技	『学習上の情報保障』・ノートテイク	聴覚障害者
4	11/28	講義・実技	『小学校での情報保障』・ノートテイク	ノートテイクボランティア
5	12/5	講義・実技	『中学校での情報保障』・ノートテイク	通級指導教室担当教員
6	12/18	講義・実技	『支援籍学習について』・ノートテイク	学校職員
7	1/23	講義・実技	『聴覚障害者として生きて』・ノートテイク	学校職員
8	2/12	講義・実技	『聴覚障害者として生きて』・ノートテイク	学校職員
9	2/20	講義・実技	『大学での情報保障について』・ノートテイク	卒業生
10	3/6	閉校式	登録員証授与、懇談	校長

#### （3）研修参加者の感想

- ・講演を聞いて聴覚障害者の情報保障について、その必要性を理解できた。
- ・実際にノートテイクを行い、子どもから「ありがとう」と言われ自信がついた。
- ・成人に対しての要約筆記と違うということと、対象者にあわせた要約筆記の方法が必要であるということが、講義から理解することができた。

#### （4）研修の成果

- ・今まで保護者を中心に講座を行ったが、今年度は地域の手話サークルや要約筆記の方にも呼びかけ、希望者が多数あった。常時の参加者は約20名で、大変熱心に取り組んでいただけた。3学期の支援籍学習等では、3つの小学校へあわせて12名のノートテイクボランティアの方に行っていただいた。また、成人への要約筆記と違って、子どもへのノートテイクは、単に情報を伝えるだけでなく、様々な支援が必要であることが講義や実技等で理解してもらえた。

#### （5）研修の課題

- ・要約筆記者派遣事業との関係で、関係する機関との協議が必要。
- ・パソコンを使っでの要約筆記の検討の必要。

## 2 講義『大学での情報保障について』（大宮ろう学校卒業生）

### （1）内容



研修会で講演するAさん

#### ＜Aさんの話（要旨）＞

私は、現在B大学に在籍しています。大学では、ノートテイクというサポートを受けながら授業に取り組んでいます。

ノートテイクというのは、先生が話している内容をそのままノートに書き伝えてもらう作業のことです。そのやり方は様々で、人によって違うと思いますが、今日は基本的なことを踏まえて、私が受けているノートテイクを説明します。

まず、ノートテイクをしてくれる方は2人が必要です。私の場合は、大学生が有償ボランティアとして行ってくれます。授業は90分で、2人の方は時間やページ数で交代しますが、2ページごとでの交代が主です。また、2人にはそれぞれ役割があり、先生の言っている言葉をそのまま書き写して伝えるノートテイク①と、内容をまとめるノートテイク②です。私は、両方のノートを見ながら、自分のノートをまとめたり、板書された単語をメモしたりします。

文章を書く上では、聞いたことを短い時間に書かなければならないという時間的な制約があります。一般的に人が話すスピードは、1分間に300～400文字分と言われていますが、書く方は、1分間に80字くらいです。早く書くために、カタカナを使ったり、あらかじめ良く出てくる単語には略字を作っておくことも大事なポイントです。



熱心に聞く研修会の参加者

また、ノートテイクは、字がきれいな人ばかりではありません。きれいに書かなければと気に掛ける方もいらっしゃると思いますが、読めれば問題はありません。何よりも早く、詳しく書いてもらうことが大事だと思っています。

私が通っている大学は、情報支援に力を入れてくれており、感謝の気持ちでいっぱいですが、まだ問題はいろいろあります。授業時にスクリーンやスライドを使う場合は、どんどん変わっていく映像も見なければならぬと同時に、ノートテイクされた内容も見なければなりません。また、ボランティアの募集や、お互いの相性の問題もあります。来年度は、私の大学に後輩も入ってくるようになっていきます。自分のためにも、周りの人のためにも、未来のためにも、今、私がやらなければならないことをしていくつもりです。

### （2）参加者の様子

- ・大学での情報保障の様子について、熱心に講師の話に耳を傾けていた。講師が本校の卒業生で、あまり大きな声を出すことは難しかったが、ノートに話の大事な部分を一生懸命に書いていた。

### （3）参加者の感想

- ・講師の方がとても勉強熱心であり、またボランティアの方もそれに応えるようにノートテイクを一生懸命にやっている。こうした信頼関係を築くことがボランティア活動には必要だと思った。
- ・ノートを見て、後で質問ができるようなノートテイクができること、そのような実践ができるように頑張りたい。

### 3 ボランティア実践者の体験談（本庄養護学校）

#### 1 ボランティアスキルアップ研修について

##### （1）はじめに

本庄養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員と外部講師による講義とボランティア実践者を交えた情報交換、小中学部の授業での学習支援ボランティア体験で構成されている。特にボランティア実践者による体験談の発表等が特徴的である。募集の方法は広報紙への掲載等。参加者は22名でPTAからの参加もある。

##### （2）研修日程

	期日	内容	内容の詳細	講師・担当者
1	6/24	情報交換	ボラ登録者によるグループワーク	学校職員
2	9/26	講義	『しょうがいて、なんだろう』	大学教授
3	10/8	講義	『ボランティア実践者の話』 『本庄養護学校をもっとよく知ろう』	ボラ登録者 学校職員
4	10/27～11/7	体験	小学部、中学部での介助体験	小・中学部
5	11/25	講義	『支援籍学習でのボランティアの関わり』	特別支援教育課
6	2/26	情報交換	ボラ登録者によるグループワーク	学校職員
7	3/12	講義	『接して学ぶことの大切さ』	元校長

##### （3）研修参加者の感想

- ・相手の気持ちを尊重して行動することの大切さを感じた。
- ・支援籍学習で関わった子どもたちが、将来社会に出た時や障害のある人と関わることになった時も、子どもの頃と同じように接することができる社会になっていくと良いと思う。
- ・色々な子どもたちと関わって良かった。仲良くなれて楽しさを感じた。

##### （4）研修の成果

- ・校内にボランティアが入るようになり5年目を迎えた。ボランティア活動をしていただける方も定着しつつあり、関連機関との連携や校内のシステム化も少しずつではあるが進みつつある。また、地域の方にもボランティアに参加していただけるようになってきた。

##### （5）研修の課題

- ・ボランティアのニーズが増えていく中で、活動人数はなかなか増えないという事実がある。学生やPTAの方は、毎年人が入れ替わってしまう状況もある。障害のある子の理解という面から考えると、多くの人に参加していただきたいが、今後は継続的なボランティア活動をしていただけるようにシステムを見直し、工夫していく必要がある。そして、地域全体を巻き込んだボランティアの育成にも取り組んでいきたい。

## 2 講義『ボランティア実践者の体験談』（本庄養護学校ボランティア登録者）

### （1）内容

#### <ボランティア Aさんの話（要旨）>

昨年度（平成19年度）は、支援籍学習に関わることや小学部低学年の遠足にボランティアとして参加させていただきました。支援籍学習では、送迎を2回行いました。まず本校（本庄養）の先生から「このようなお子さんがいるんですけど、いかがですか」というお話があり、自分の時間が空いているかを確認して、ボランティアを始めました。



講義の様子

学校行事では、小学部低学年の遠足に行かせていただきました。先生の方から「(よく動く)お子さんを見てください」ということだったので、どんな動きをするのかと思っていたら、本当によく動くお子さんで、私はずっと走り続けていました。自分の子どもも小さい頃には多動な子だったので慣れているつもりでしたが、筋肉痛で仕事が大変でした。

小さな子どもは、とても純粋なので私たちの様子をうかがっています。私たちが一歩引いてしまうと、子供たちも引いてしまって、ぜんぜん近寄ってきてくれません。だから私の方からコミュニケーションを取るようにどんどん話かけています。すぐに信頼関係を築くことができるとは思いませんが、少しずつお互いの距離を縮めていければいいと思っています。大変なこともあります。皆さんにも無理をしない程度に是非参加していただけることを願っています。ボランティアにあまり興味のない人も、一度は参加していただくと嬉しいなと思います。



#### <ボランティア Bさんの話（要旨）>

私がボランティアを始めたのは、PTAの役員になったからです。役員をやっている以上、このような研修には先頭切ってやらなければいけないかなという気持ちがありました。それまでボランティアには興味がなくて、できれば関わりたくないと思っていましたが、始めてみれば、「割とできちゃうじゃない」と思いました。小学部低学年の遠足にボランティアとして入った時に、うちの子にもこんな時代があったのかなということを思い出させてもらいました。遠足など自分の子どもと行くのと、ボランティアとして行くのとでは、楽しみも違うんだと思って、逆に私の方が楽しくさせてもらっているなあと思います。

### （2）参加者の様子

- ・本庄養護学校では、PTA組織としてボランティア育成活用部を設置している。本講座にも、PTAや卒業された方の保護者も一緒に参加している。今回は、ボランティア活動を経験された方の話を伺い、これから活動する方が少しでも安心して活動できるようこの講座を設定した。参加者はとても熱心に聞いていた。

### （3）参加者の感想

- ・支援籍学習は障害の有無ではなく、一緒に学び、障害のある子にとって地域のつながりが広がる良い機会であり、ボランティアとしてそのお手伝いできればと思う。大学生のボランティアの方もいると聞いて、色々な方がボランティアとして特別支援学校に関わり、子どもたちの支援ができるのは素敵なことだと思う。

## 4 クラスに入っの介助体験（行田養護学校）

### 1 ボランティアスキルアップ研修について

#### （1）はじめに

行田養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員や外部講師等による講義と小中学部の授業での介助体験で構成されている。講義の中では、『障害のある子どもの親の気持ち』というテーマで、保護者が話す内容のものもあり幅広い企画となっている。募集は社会福祉協議会と連携して広報紙への掲載や民生委員へ呼びかけを行っている。参加者は13名で、民生委員の参加は6名であった。また、今年度はこの講座を社会福祉協議会と共催という形で実施し、授業での介助体験以外の講義等については、総合福祉会館で行っている。

#### （2）研修日程

	期日	内容	内容の詳細	講師・担当者
1	9/10	講義 講義	『学校支援ボランティアとは』 『しょうがいつてなんだろう』	特別支援教育課 大学准教授
2	9/24	講義	『子どもたちとの関わり方』	教頭
3	10/9～10/21	体験	小学部、中学部での介助体験	小・中学部
4	11/11	講義	『障害のある子どもの親の気持ち』	P T A
5	1/27	講義	スキルアップ事前研修	学校職員
6	2/3～2/27	体験	小学部、中学部での介助体験 2/13 中間研修 2/27 修了講座	小・中学部 学校職員、校長、教頭

#### （3）研修参加者の感想

- ・この講座に参加し、様々な方の話を聞いたり、実際にボランティア体験をすることにより多くのことを学べた。自分のできる範囲内で今後も続けていきたい。
- ・障害のある子どもたちの成長を考えると、周りが支え、理解しながら助け合うことがとても大切であると感じる。

#### （4）研修の成果

- ・募集においては、社会福祉協議会の協力により、昨年より多くの方が集まった。
- ・介助体験を通して、児童生徒への理解が深まった。

#### （5）研修の課題

- ・ボランティア希望者に、支援籍学習のボランティアとして協力していただく場合、児童生徒の理解のために多くの体験を積んでいただく必要があり、育成には時間を要する。
- ・ボランティア登録者に、今後有効に活動していただくためには、学校としての受け入れ体制の整備を進める必要がある。



## 2 体験『ふだんの行養でボランティア体験』（行田養護学校小・中学部）

### （1）内容

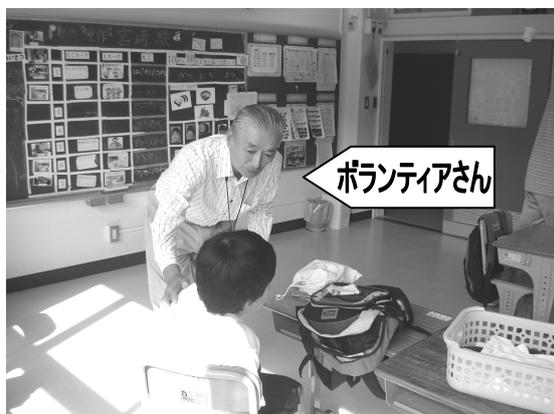


スクールバスのお迎え

一日のすべての授業に入り、児童生徒と直接関わっての介助体験をした。

まず、朝の打ち合わせ後、スクールバスが来るのを児童生徒玄関で迎える。ボランティアは、ここで担当する児童生徒と対面する。クラスでは、着替えや朝の学習の介助体験をし、その後授業での介助体験をした。この日の授業は、近くの公園への散歩や教室での学習が行われた。

また給食では、配膳等で教員の補助をした。



着替えの介助



授業の介助



散歩で児童と一緒に活動（どんぐり拾い）



給食準備の手伝い

### （2）参加者の様子

- ・児童生徒との学習では、担当の児童生徒にやや戸惑いながらも、2日目にはお互いに信頼関係もできてきたようで、積極的に関わる姿が見られた。

### （3）参加者の感想

- ・緊張と不安も子どもたちと接するうちになくなり、気持ちが楽になった。そのせいか、時間も短く感じられた。貴重な体験だった。
- ・これからは共に生きる仲間として、関わっていかれたらと思う。

## 5 クラスに入っの介助体験（坂戸ろう学校）

### 1 ボランティアスキルアップ研修について

#### （1）はじめに

坂戸ろう学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員や社会福祉協議会職員による講義と小中学部の授業での介助体験の他に、手話やノートテイクについての講義、講習が企画されている。募集は社会福祉協議会と連携して広報紙への掲載を行っているほか、学校のホームページでも案内をしている。研修参加者は22名で、約半数が主婦である。

#### （2）研修日程

	期日	内容	内容の詳細	講師・担当者
1	11/1	講義 講義	『聴覚障害の基礎知識、コミュニケーションについて』 『特別支援教育について』	社協職員 校長、学校職員
2	11/8	体験	坂戸ろう学校「坂戸クラブ」に参加	坂戸クラブ
3	11/15	講義 講習	『聴覚障害者の生活について』 手話で自己紹介	坂戸市聴覚障害者協会
4	11/22	演習	手話講座（住所、趣味、仕事、家族）	坂戸市聴覚障害者協会
5	11/29	講義 講習	『要約筆記の基礎知識』 ノートテイク体験	坂戸市要約筆記さくら
6	12/6	講義 講習	『大学でのノートテイク体験談』 ノートテイク体験	坂戸市要約筆記さくら
7	12/10	体験	小学部での介助体験	小学部
8	12/12	体験	幼稚部での介助体験	幼稚部
9	12/13	講習 交流	『手話講座』 聴覚障害者とボラグループとの交流会	坂戸市聴覚障害者協会 坂戸市要約筆記さくら

#### （3）研修参加者の感想

- ・校長先生がとてもわかりやすく手話をされ、その中で「ボランティア」の成り立ち、「関係」そして「続く」を解説され感動した。
- ・要約筆記を体験し普段の会話の無駄の多さを知り、利用者の苦労が分かった。
- ・坂戸クラブでは、リーダーが「見て、見て」と指示を出す前に一人残らず注目した後で説明し、その都度確認する様子がとても新鮮だった。
- ・子どもたちがとても元気で活発なのに驚いた。

#### （4）研修の成果

- ・多くの参加者があり、聴覚障害やろう学校について知ってもらえた。
- ・支援籍学習の付き添いの申し出があり、今後具体化への可能性が出てきた。
- ・地元の社会福祉協議会や聴覚障害者関連の団体との連携が深まった。社会福祉協議会とは、今後も協力して取り組みを行っていくことを確認できた。

## (5) 研修の課題

- ・ろう、難聴児への支援籍での支援は、子どもたちとコミュニケーションがとれ手話通訳や要約筆記といった情報保障ができることが必要になるが、スキルアップ研修会だけでは、そのスキルを身につけることは難しい。
- ・ろう学校の学区は広いため遠方への支援籍には付き添っていくことが難しい。今後は広い地域の社会福祉協議会との連携も考慮する必要がある。
- ・ろう学校では、一人で担当している授業が多いので、後補充として入ることが難しい。ボランティアの入り方について検討と工夫が必要である。
- ・今後、ボランティアに関する要綱のようなものがあると取り組みやすい。

## 2 体験『小学部でのボランティア体験』（坂戸ろう学校小学部）

### (1) 内容



### (2) 参加者の様子

- ・手話でのコミュニケーションは、苦勞していたようだったが、体を使った外遊びでは、一緒に活動し、目の高さで向かい合ってやり取りしようとしていた。教員やリーダーの子どもたちが、他の子に説明する様子をよく観察していた。

### (3) 参加者の感想

- ・手話での会話は難しかったが、子どもたちと楽しく活動することができた。
- ・ろう学校の子どもたちが、とても元気で活発なのに驚いた。
- ・先生が子どもたちを見て、分かりやすく説明していたのが印象的だった。

## 6 クラスに入っの介助体験（浦和養護学校）

### 1 ボランティアスキルアップ研修について

#### （1）はじめに

浦和養護学校のボランティアスキルアップ研修は、学校教員や社会福祉協議会職員による講義と小中高等部の授業での介助体験で構成されている。高等部での介助体験では、マラソン大会試走での補助を企画している。募集は社会福祉協議会と連携して広報紙への掲載を行っているほか、近隣公民館にチラシを掲示したり、学校のホームページでも案内をしている。研修参加者は最大で15名である。

#### （2）研修日程

	期日	内容	内容の詳細	講師・担当者
1	8/1	講義 講義	『特別支援教育について』 『養護学校の日について』	学校職員
2	8/22	講義	『ボランティア活動について』	社協職員
3	9/22	体験	学習指導の補助	小学部高学年
4	10/22	体験	サツマイモ収穫の介助	中学部
5	12/12	体験	マラソン大会試走の介助	高等部

#### （3）研修参加者の感想

- ・一人一人個人差があり、長い目で育てることがいかに重要か分かった。
- ・生徒のけなげな仕草に心を打たれた。大人の接し方を勉強させてもらった。
- ・子どもたちが明るくて思っていたイメージと違っていた。
- ・子どもになかなか上手に話しかけることができなかったが、時々笑顔にホッとした。
- ・マラソン大会試走の交通整理をしながら声援を送った。一生懸命に走る生徒の姿に感動した。

#### （4）研修の成果

- ・地域に特別支援教育と特別支援学校を知ってもらう機会を提供できた。
- ・さいたま市緑区社会福祉協議会との連携が一層深まった。
- ・地域の民生委員とのつながりができた。
- ・具体的なボランティア活動に触れて、教員の理解も深まった。

#### （5）研修の課題

- ・広く、参加者を募る方法の検討。
- ・ボランティア受け入れ体制の整理。

18歳以上で興味のある方、参加してみませんか？  
 ＊特別支援教育ってなに？  
 ＊浦和養護ってどこにあるの？

**ボランティアスキルアップ研修**  
 ＊全5日間の予定です。 埼玉県立浦和養護学校

第1日： 8/ 1（金） 9：00～12：00 <講義>『特別支援教育とは？ 浦和養護の日』  
 第2日： 8/22（金） 10：00～11：30 <講義>『ボランティア活動について』  
 第3日： 9/22（月） 10：30～12：00 <体験>小学部『散歩』雨天時は教室内で学習  
 第4日： 10/22（水） 9：30～12：30 <体験>中学部『芋掘り』雨天時は教室内で課題別学習  
 第5日： 12/12（金） 雨天時12/17（水） <体験>高等部『マラソン』9：30～12：30

※8月の講義会場はプラザイースト 第5セミナールームです。  
 <問い合わせ先>埼玉県立浦和養護学校 小教数課 H.P. : <http://www.uwawa-sh.spc.ed.jp>  
 TEL : 048-878-1221 FAX : 048-812-1012

研修のチラシ

## 2 体験『中学部のさつまいも収穫の補助』（浦和養護学校中学部）

### （1）内容



生徒と対面

中学部のさつまいも収穫の授業で生徒への介助体験を行った。打ち合わせで、それぞれが担当するグループについて説明を受け、玄関前で生徒に紹介された。その後、畑に移動して、グループごとにさつまいもを収穫した。

収穫の際には、生徒と一緒にさつまいもを掘ったり、生徒がさつまいもを取りやすいように掘り起こしたり、その場の状況に合わせて、活動を行った。



生徒と一緒に畑へ移動



生徒が芋を取りやすいように掘っておく



### （2）参加者の様子

- ・初めは、生徒の接し方に戸惑いがあったようだが、畑でさつまいもと一緒に掘る頃から生徒と打ち解け、笑顔や笑い声が生まれていた。知的障害の子どもにも全く接したことがない方々だったが、短時間で生徒との距離が縮まっていくのが分かった。収穫したさつまいもを手にとり、生徒と記念撮影をするボランティアの方々の笑顔が印象に残った。

### （3）参加者の感想

- ・子どもと十分に会話ができないだけに、気力と体力の大切さが分かった。
- ・先生方の仕事の大変さと子どもへの愛情の深さを感じた。
- ・担当した生徒に思うように歩いてもらえず苦労したが、時々笑顔にホッとした。
- ・体力のある中学生で、やる前は不安だったが、無我夢中で芋掘りを生徒と一緒に楽しんだ。
- ・貴重な体験ができた。またチャンスがあれば参加させていただきたいと思った。
- ・楽しい一日だった。

